

定したシミュレーション訓練などを行う。救急 WS に配置された救急隊は、勤務時間内であれば他の救急隊が搬送してきた傷病者の処置や見学をすることが可能であり、常に知識や技術のアップデートを行うことができる。また、救急 WS では1年間に消防局の救急救命士約 50 名が、救急救命士再教育研修や気管挿管実習、ビデオ硬性喉頭鏡を使用した気管挿管実習を実施している。

獨協医科大学埼玉医療センター指導医による事後検証や速水救命救急センター長による、救急隊員を対象とした救急医療勉強会がおよそ月 1 回開催されている。この勉強会では、救急隊が搬送した傷病者の症例とその後の経過について医師から説明が行われ、それに関連する講義も行われる。

5 ドクターカーの運用

医師や看護師が消防の救急車に乗り込み、傷病者の元へ向かう「ワークステーション型ドクターカー」(以下「WS 型ドクターカー」という。)については、2 か月間の試行運用を経て令和 5 年 11 月から本格的な運用を開始した。

WS 型ドクターカーは、消防指令センターに入電があった場合、ホットラインで ER 医師に連絡が入り、

消防の救急車で救急隊に加え医師・看護師の 2 名を乗せ現場へと向かう。消防局管内が広いこともあり、先着救急隊と WS 型ドクターカーが搬送途上にドッキングをする場合も多い。病院と消防で定期的に合同訓練を行い、現場でスムーズな活動ができるよう図っている。

医師と看護師が同乗することにより、緊急度や重症度の高い傷病者に対して病院外で早期に医療介入が図れ、傷病者の救命率向上や後遺症の軽減が期待される。また、救急隊員が現場において医師から即座にフィードバックを受けることも可能となる。

6 その他

消防局ではいち早く傷病者の元へ向かうため、災害現場に一番近い救急隊が出動する直近直行方式を取り入れている。そのため、一度出動すると連続出動や、收容困難事案等に遭遇した場合には現場滞在時間が数時間に及ぶ。そこで、救急隊員の休憩時間を確保するために、令和 4 年 8 月からトイレ休憩や軽食の購入のため、コンビニエンスストアを利用することを住民に周知し理解を得る取組を行っている。

市民への広報活動としては、救急の日のイベントとして管内の商業施設において令和 6 年 9 月 14 日

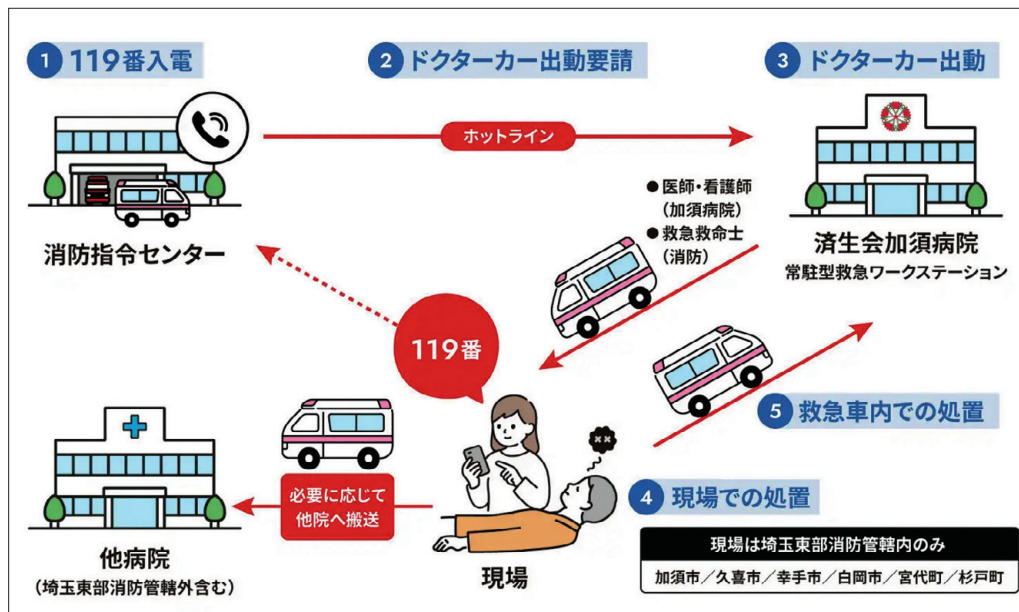


図 WS 型ドクターカーの運用

済生会加須病院提供

▶ 埼玉県内初の常駐型救急ワークステーションを開設



写真 10 WS 型ドクターカーの訓練の様子

(土)に救急フェスタを開催した。このイベントでは、救急車の展示、救急服の着装体験、心肺蘇生法の実技体験などを通して救急車の適正利用を呼びかけるとともに、応急手当普及啓発活動を行ったほか、済生会加須病院救命救急センターの医療スタッフによる、WS 型ドクターカーの運用などを解説した。また、救急現場のシミュレーション訓練を行い、普段の救急業務の様子を紹介した。今後も、より多くの方々に対して救急業務の理解と認識を深めてもらうための取組を行っていく。



写真 11 救急フェスタの様子